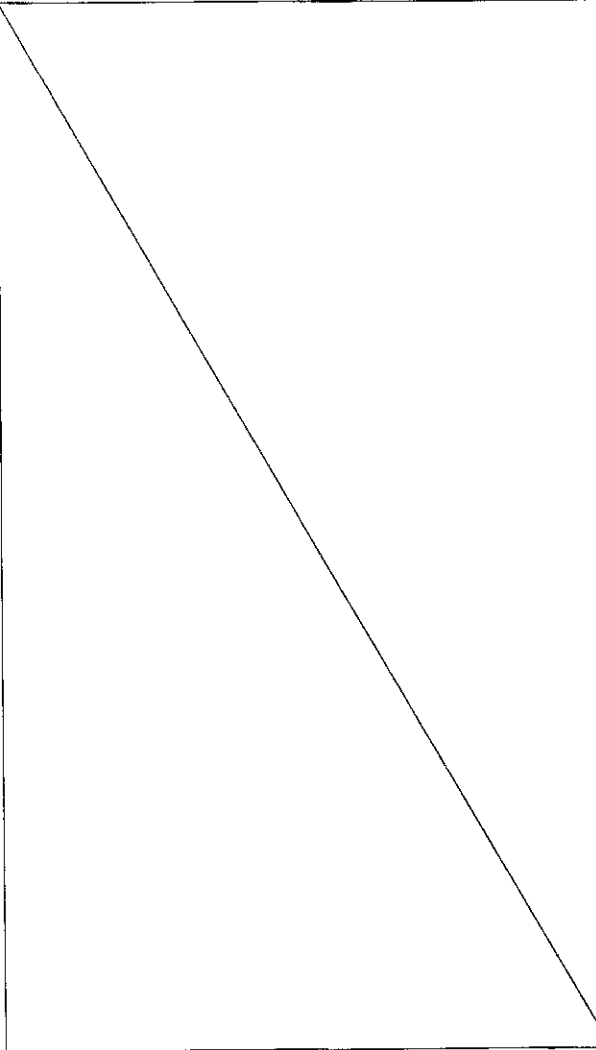


	重点的に取り組む課題と目標	目標を達成するための活動計画	活動の成果・振り返り
<p>①</p> <p>テーマ：地域の見守りネットワークの構築</p> <p>【課題・背景】</p> <p>地域の特性として、駅近隣は利便性が高く高齢になっても自立した生活が継続しやすいが困った時に地域とつながりがなく相談できない、民生委員の交代や欠員が多い地域もあり。身近な地域での見守りの重要度が増している。</p> <p>地域での見守り体制の構築と、困った時に相談しやすい環境を整備していくことが必要である。</p> <p>【目標】</p> <p>民生委員、地域住民、社協、見守り相談窓口、民間事業者などとの協働により顔の見える関係づくりから、地域の見守りネットワークを構築していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員との地区連絡会をエリア別に開催。地域での見守り活動をより効果的かつ効率的に行うか、民生委員と見守り協力員との連携しながら地域をどのように見守るかなど検討していく。 ・地域住民との関係性を構築。社協・見守り相談窓口とも協働しながら地域住民との接点の機会を作り、それぞれの機関の周知とともに地域で必要な支援を確認していく。 ・前年度に実施した配食業者との交流会が地域の見守り体制強化として有効だったことを踏まえ、今年度は自費ヘルパーなど他の事業所も加えて、より地域の高齢者へ多角的な見守りと事業者間の連携を図る。 ・認知症カフェや元気チェックでの出張相談、圏域内で活動している20か所弱のサロンを訪問により、顔の見える関係をつくり身近な相談窓口として包括の周知を図りネットワーク構築を図る。 	<p>活動の成果・振り返り</p>	

(認知症重点目標)

	重点的に取り組む課題と目標	目標を達成するための活動計画	活動の成果・振り返り
②	<p>テーマ：認知症の方への地域の理解と集う場の継続</p> <p>【課題・背景】 高齢化が進行し認知症に関する相談が増えて いる中で、認知症になっても安心して暮らし続 けられる共生社会の実現に向けた地域づくりが 必要とされている。 そのためには、地域住民の認知症の方への理 解と、認知症の初期段階で孤立しないように地 域で集える場などの地域づくりが重要である。</p> <p>【目標】 認知症の方への理解を地域住民に深めてもら う。認知機能が低下した高齢者が地域で集う場 を継続していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内のサロンを訪問。地域住民と顔の見える関係を構 築しながら、ミニ講座で認知症についても触れつつアプ ローチしていく。その過程を通して認知症サポーター養 成講座の開催やチームオレンジ結成の働きかけとして人 材発掘なども行う。 ・永年の活動により定着した「すみれカフェがお」、新規 立ち上げたばかりの「カフェあたご」の2か所の認知 症カフェについて、出張相談も兼ねて参加しながら支援 していく。 ・定期的な元気チェックを実施。地域住民との交流により 認知症の疑われる方も含め早期発見・早期対応を行う。 コミュニティセンター・介護予防リーダーなど地域住民 との協働にて、認知機能が低下した高齢者の集う場を継 続していく。 	

令和6年度 北部地域包括支援センター活動計画

令和6年度地域包括支援センターの運営方針に基づき、下記のとおり計画を策定する。

1 総合相談支援業務

【活動方針】

地域の高齢化がすすみ高齢者世帯も増加する中で、地域の見守りにより早期発見され相談につながるケースも多くあり、民生委員との地区連絡会ではエリア別に地域での見守り活動について検討する。また、身近に相談できる場として地域に出向き出張相談を兼ねた認知症カフェの参加や元気チェックなどの活動も継続して行う。

<必須項目>

【項目】 地域特性に応じたテーマを設定した民生委員連絡会の開催	目安根拠: 圏域で1回(地域課題会議と兼用開催可)	目標値	実績
【実施手段】 (テーマ案: 地域での見守り活動について) 第1エリア(関戸・一ノ宮)、第5エリア(愛宕・乞田)のエリア別に開催。地域での見守り活動をより効果的かつ効率的に行うか、民生委員と見守り協力員との連携しながら地域をどのように見守るかなど検討。		2回 (目安1回)	回
【年間振り返り】			

【項目】出張相談会の開催				目安根拠: 月1回				目標値	実績
【実施手段】 認知症カフェ(すみれカフェえがお、カフェあたご)、元気チェック(かえで館)にて実施。身近に相談できる場として地域に出向き、地域包括支援センターの周知を図るとともに、ちょっとした困りごとの相談から必要に応じてその後の相談対応につなげていく。								12回 (目安12回)	回
スケジュール									
月	日時	場所	備考	月	日時	場所	備考		
4月	10日(水)10:00~12:00	愛宕コミュニティプレイス	カフェあたご	10月		愛宕コミュニティプレイス	カフェあたご		
5月	8日(水)10:00~12:00	愛宕コミュニティプレイス	カフェあたご	11月		かえで館、他	元気チェック		
	27日(月)15:00~16:30	カフェシナモン	すみれカフェ						
6月	12日(水)10:00~12:00	愛宕コミュニティプレイス	カフェあたご	12月		愛宕コミュニティプレイス	カフェあたご		
7月	22日(月)15:00~16:30	カフェシナモン	すみれカフェ	1月		カフェシナモン	すみれカフェ		
8月		愛宕コミュニティプレイス	カフェあたご	2月		愛宕コミュニティプレイス	カフェあたご		
9月		カフェシナモン	すみれカフェ	3月		カフェシナモン	すみれカフェ		
【年間振り返り】									

<任意項目>

【項目】地域住民との関係性構築の支援				目標値	実績
【実施手段】 社協・見守り相談窓口とも協働しながら地域住民との接点の機会を作り、それぞれの機関の周知とともに地域で必要な支援を確認しながら、対応策を検討していく。				2回	
【年間振り返り】					

2 権利擁護業務・虐待防止・消費者被害

【活動方針】

高齢者が住み慣れた地域で尊厳を保持し生活していくために、権利擁護支援、虐待対応、消費者被害防止など行う。親族の支援が受けられない独居高齢者などが安心して生活できる社会資源の勉強会を行い地域住民に向けて権利擁護の普及啓発を図る。また、消費者被害について地域住民への講座などを行い被害防止の普及啓発にも取り組む。

<必須項目>

【項目】 権利擁護業務・虐待防止・消費者被害に関する勉強会開催数	目安根拠: 上下半期に1回	目標値	実績
【実施手段】 親族の支援が受けられない独居高齢者などが安心して生活できるように、地域住民に向けた「高齢者あんしんサポート事業」についての講座を権利擁護センターに講師依頼し開催。また、消費者被害防止について地域住民に向けた講座を行政書士会へ講師依頼し、コミュニティセンターとの協働にて開催。		2件 (目安2件)	件
【年間振り返り】			

<任意項目>

【項目】 コミュニティセンターと共同で地域の防犯力を高めるための講座開催	目標値	実績
【実施手段】 多摩中央警察署へ講師依頼し開催。多摩市で起きている被害状況など警察から直接話を聞くことでより具体化され、コミュニティセンターと共同開催することで地域での防犯力を高める。	1件	
【年間振り返り】		

3 介護予防ケアマネジメント業務(第1号介護予防支援事業)

【活動方針】

危険な老化のサインに早期に気づきフレイル予防に取り組むことが重要と思われる。フレイルのリスクが高い高齢者を地域の社会資源や総合事業につなぎ、地域住民・第2層生活支援コーディネーター・見守り相談窓口との協働により地域の介護予防を推進する。介護予防ケアマネジメントにおいては適切なアセスメントのもと、高齢者の自己実現につながる自立に向けた支援を行う。

<必須項目>

【項目】 通所型短期集中予防サービス(元気塾)利用人数	目安根拠:実績と高齢者人口を基に算出	目標値	実績
【実施手段】 短期集中で専門的なりハビリが必要な対象者を元気塾へつなぐ。包括で実施する元気チェックから介護予防が必要と思われる対象者をつなぎ、予防プランを委託している介護支援専門員にも元気塾の周知をして活用を促す。		人 (目安29人)	人
【年間振り返り】			

【項目】 通所型短期集中予防サービス(元気塾)から地域介護予防教室等の地域活動につなぐ人数	市設定目標の根拠:利用者の7割を想定	目標値	実績
【実施手段】 介護予防リーダーの地域介護予防教室のほか、サロンや老人クラブなど地域の社会資源へつなぐ。		人 (目安20人)	人
【年間振り返り】			

【項目】 住民主体による訪問型サービス利用人数	目安根拠:実績と高齢者人口を基に算出	目標値	実績
<p>【実施手段】</p> <p>住民主体による訪問型サービス以外のインフォーマルサービス(たすけあい活動、自費ヘルパー、配達サービスなど)も活用していく。また、本人の状況に応じて自立支援の視点から訪問型サービスからの移行も検討する。予防プランを委託している介護支援専門員にも住民主体による訪問型サービスを周知して活用を促す。</p>		人 (目安14人)	人
【年間振り返り】			

【項目】 地域包括支援センター主催による介護予防講座等の開催	市設定目標の根拠:実績から算出	目標値	実績
<p>【実施手段】</p> <p>定期的な元気チェックを実施。コミュニティセンターや介護予防リーダーなどの地域住民や、見守り相談窓口と連携しながら、介護予防の普及啓発を推進していく。第1エリア(関戸・一ノ宮)、第5エリア(愛宕・乞田)で各々4回ずつの開催を予定。</p>		8回 (目安2回)	回
【年間振り返り】			

【項目】 元気塾リハビリテーション専門職訪問同行支援の利用	目安根拠:実績と高齢者人口を基に算出	目標値	実績
<p>【実施手段】</p> <p>リハビリテーションに関して身体的な評価や助言が必要なケース、市の一般福祉サービスの住宅改修や日常生活用具給付を申請するケースなどについて、リハビリテーション専門職の訪問同行支援を活用する。</p>		回 (目安10回)	回
【年間振り返り】			

【項目】 介護予防給付において特定のサービス事業所に偏らない	市設定目標の根拠:他市参考値	目標値	実績
【実施手段】 適切なアセスメントのもと、利用者の目標が達成できるように利用者と相談しながらサービス事業所を選定していく。		占有率 50%未満	%
【年間振り返り】			

【項目】 居宅支援事業所に委託する際は特定の事業所に偏らない	市設定目標の根拠:他市参考値	目標値	実績
【実施手段】 個々のケースにより適切な委託先を選定し、利用者へ情報提供を実施。		占有率 40%未満	%
【年間振り返り】			

<任意項目>

【項目】 自立支援に向けた地域資源の活用についての勉強会		目標値	実績
【実施手段】 介護支援専門員が多様なインフォーマルサービスを有効に活用し、自立支援につながるケアマネジメントのスキルアップを図る。		1回	回
【年間振り返り】			

4 包括的・継続的ケアマネジメント業務

【活動方針】

地域ケア会議(個別ケース会議、地域課題会議、自立支援マネジメント会議)を活用しながら、地域包括ケアを推進していく。困難ケースなどの課題解決に向け、居宅介護支援事業所と連携して介護支援専門員の支援を行う。

<必須項目>

【項目】 支援困難事例等に対する居宅介護支援事業所支援ケース数	目安根拠:実績から算出	目標値	実績
<h5>【実施手段】</h5> <p>多問題世帯、認知症、権利擁護などの問題を抱えた困難ケースについて、居宅介護支援事業所と連携して介護支援専門員の支援をしながら課題解決していく。ケース管理表を活用して件数など把握する。</p>	5 件 (目安 5 件)	件	
<h5>【年間振り返り】</h5>			

【項目】地域課題会議(わがまちミーティング)の実施	目安根拠:圏域で1件	目標値	実績
<h5>【実施手段】</h5> <p>地域課題調整会議で抽出した課題をベースとして、社協の地域福祉推進委員会や民生委員との地区連絡会などで地域住民とともに各エリア別に地域課題の解決に取り組む。</p>	2 件 (目安 1 件)	件	
<h5>【年間振り返り】</h5>			

【項目】個別地域ケア会議(にこにこ・らくらくミーティング)の実施	目 標 値	実 績
<p data-bbox="1592 92 1809 119">目安根拠:実績から算出</p> <p data-bbox="103 156 241 183">【実施手段】</p> <p data-bbox="103 188 1809 279">日常業務の中から、介護支援専門員の対応困難な事例や地域や関係機関と連携しながら地域包括ケアが推進できるような事例を選定し、地域ケア会議を開催。</p>	5 件 (目安 5 件)	件
【年間振り返り】		

【項目】自立支援ケアマネジメント会議(ぐっどらいふミーティング)の実施	目 標 値	実 績
<p data-bbox="1592 512 1809 539">目安根拠:4ヶ月に1件</p> <p data-bbox="103 571 241 598">【実施手段】</p> <p data-bbox="103 603 1809 742">新規の介護予防プランなどの自立支援に向けた個別課題の検討や自立支援を阻害している地域課題の抽出を包括内で共有しながら選定会議を毎月実施。選定会議の蓄積からケースを選定し、社協の地域福祉コーディネーター・第2層生活支援コーディネーター及びケースに応じて必要な専門職のスーパーバイザーなど参集のうえ、ぐっどらいふミーティングを開催。</p>	3 件 (目安 3 件)	件
【年間振り返り】		

<任意項目>

【項目】見守り機能のある民間事業所向けの情報交換会	目 標 値	実 績
<p data-bbox="103 1093 241 1120">【実施手段】</p> <p data-bbox="103 1125 1832 1216">前年度に実施した配食業者との交流会が地域の見守り体制強化として有効だったことを踏まえ、今年度は自費ヘルパーなど他の事業所も加えて、より地域の高齢者へ多角的な見守りと事業者間の連携を図る。</p>	1回	
【年間振り返り】		

5 認知症施策の推進

【活動方針】

認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた場所でより良い環境で自分らしく暮らし続けられるよう支援を行う。チームオレンジ結成のための働きかけでは圏域内のサロンを訪問して地域住民と顔の見える関係を構築しながら、ミニ講座で認知症についても触れつつアプローチしていく。また、認知症カフェの支援も継続して行っていく。

<必須項目>

【項目】コーディネート(社会参加・孤立予防等)が必要な認知症高齢者に関する個別地域ケア会議の開催件数	目安根拠:実績から算出	目標値	実績
【実施手段】 介護支援専門員や地域住民、関係機関などからの相談があった認知症高齢者の事例から選定のうえ、個別地域ケア会議を実施。		1件 (目安1件)	件
【年間振り返り】			

【項目】新規団体への認知症講座(認知症サポーター養成講座、その他認知症講座)の実施	目安根拠:実績から算出	目標値	実績
【実施手段】 認知症を知る月間のイベントとして認知症に関する講座などを企画実施。新規団体への認知症講座については、地域の状況を把握しながら必要な団体へアプローチしていく。		1回 (目安1件)	回
【年間振り返り】			

【項目】 チームオレンジ結成のための働きかけ実施	目安根拠:運営方針に準ずる	目標値	実績
【実施手段】 圏域内のサロンを訪問。地域住民と顔の見える関係を構築しながら、ミニ講座で認知症についても触れつつアプローチしていく。その過程を通して認知症サポーター養成講座の開催や人材発掘なども行う。		12回 (目安1件)	回
【年間振り返り】			

<任意項目>

【項目】 認知症カフェの支援	目標値	実績
【実施手段】 永年の活動により定着した「すみれカフェえがお」、新規立ち上げたばかりの「カフェあたご」の2か所の認知症カフェについて、出張相談も兼ねて参加しながら支援していく。		18回
【年間振り返り】		

6 第2層生活支援体制整備事業

【活動方針】

多様な主体による互助を基本とした多様な生活支援・介護予防サービスを充実させるとともに、それらのサービスの担い手として高齢者の社会参加を促進し、地域の支え合いの体制づくりを推進していく。

<必須項目>

【項目】地域課題の把握、整理	目安根拠:実績から算出	目標値	実績
<p data-bbox="100 566 257 598">【実施手段】</p> <p data-bbox="100 614 1590 694">圏域内で活動している20か所弱のサロンを訪問。住民視点での地域課題を聴取のうえ、圏域内の地域課題の把握や整理を行う。 また第1層生活支援コーディネータと連携し、民間サービスも含めた地域の社会資源の整理を行う。</p>		実施	
【年間振り返り】			

【項目】近所 de 元気アップトレーニング新規立ち上げ団体数	目安根拠:実績から算出	目標値	実績
<p data-bbox="100 997 257 1029">【実施手段】</p> <p data-bbox="100 1037 1836 1125">通いの場がない又は少ない地域課題を考慮しながら、担い手の人材発掘も行いつつ、近所de元気アップトレーニングの新規団体立ち上げをすすめていく。</p>		1 団体 (目安 1 団体)	団体
【年間振り返り】			

【項目】近所 de 元気アップトレーニング説明会開催数	目安根拠:実績から算出	目標値	実績
【実施手段】 地域の社会資源の現状を把握・分析しながら、市・社協との協働により、近所de元気アップトレーニング説明会を開催する。		1 回 (目安 1 回)	回
【年間振り返り】			

【項目】地域課題調整会議Ⅰの開催件数	目安根拠:4ヶ月に1回	目標値	実績
【実施手段】 ぐっどらいふミーティングのケース選定会議に合わせて実施。包括のぐっどらいふ・にこにこ・らくらくミーティングなど個別ケース会議と第2層生活支援コーディネーターの地域の積み重ねから発見される地域課題を共有し整理する。		3 回 (目安 3 回)	回
【年間振り返り】			

【項目】生活支援コーディネーター連絡会の参加件数	目安根拠:月1回	目標値	実績
【実施手段】 市及び第1層生活支援コーディネーターとの連絡会に参加し、業務の進捗状況や課題を共有することで業務の円滑な遂行につなげる。また、第2層生活支援コーディネーター間の連絡会に参加しコーディネーター間の連携体制を構築する。		12回 (目安12回)	回
【年間振り返り】			

<任意項目>

【項目】担い手の人材発掘	目標値	実績
【実施手段】 見守り協力員・生活支援サポーター・オレンジパートナーなどについては、育成や登録後に実際の活動につながっていない方も多くモチベーション低下が懸念される現状を踏まえ、その方々の思いを確認するアンケート調査を実施する。その方々の強み・してみたいことなど聴取することで、地域で必要な社会資源の担い手としてマッチングに役立てる。		実施
【年間振り返り】		